

初任者のうちに アクティブ・ラーニングを学ぶ

～一般財団法人日本私学教育研究所 初任者研修 全国研修会のお知らせ～



「アクティブ・ラーニング」って言われても、具体的にはどういう教え方をすれば「アクティブ・ラーニング」を取り入れたことになるのだろう？そもそも「アクティブ・ラーニング」ってどういうことを言うの？入試改革もあるし、学習指導要領も変わるし、取り入れたほうが良いのは分かるけど…。一体どうしたらよいのだろう…。私にもできるのかな？

今年度の初任者研修全国研修会は、下記のような初任者の先生（若手の先生）にぜひ参加していただきたいプログラムになっています！

アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を取り入れたいけど、どうしたらよいか分からない！

自分の授業を良くするためのヒントが欲しい！

そもそも「アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）」ってなんですか？

アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）に詳しい専門家の話を聞きたい！

H30年度 一般財団法人日本私学教育研究所 初任者研修全国研修会の具体的な内容

①私立学校と公立学校の違いを学ぶ

先生方が勤める私立学校について学び、「私学として特色ある授業」を考えるための準備をしましょう。

②「アクティブ・ラーニング」（主体的・対話的で深い学び）とは何かを学ぶ

具体的な方法等について講師や参加者と一緒にワークショップを通じて考えることで、先生方の日々の授業に取り入れるヒントを見出します。

③PBLについて学ぶ

アクティブ・ラーニングを学んだあとに、さらにそれを発展させるためにPBL（課題解決型学習）についても一緒に考えましょう。

問い合わせ多数により、締め切り日を延長いたします

東日本会場：最終締め切り 平成30年10月10日（水）

西日本会場：最終締め切り 平成30年10月16日（火）正午まで

研修会の講師紹介は裏面にあります

野末 俊比古 先生
青山学院大学 教授



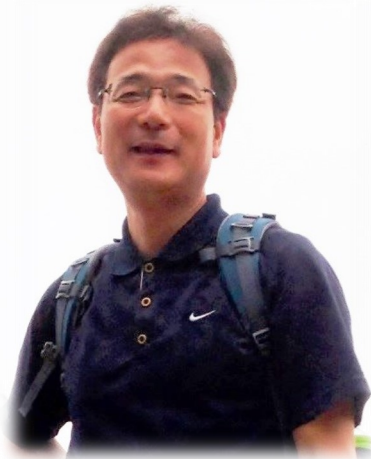
アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の必要性・重要性はわかるものの、具体的に何をどこまで実施すればよいのか、とお考えの先生方は少なくないと思います。私の担当するコマでは、そうした先生方を想定して、「主体的・対話的で深い学び」という概念について、政策文書あるいは教科書的な捉え方ではなく、実践的に捉え直してみたいと思います。そのうえで、先生方お一人お一人の授業でどのように展開していけばよいかを、なるべく具体的に考えていきたいと思っています。

時間的な制約もありますので、実践の方法を網羅的に提供することはできませんが、実践の方法をつくり出すヒントはつかんでいただけたらと思います。前提知識・スキルは不要ですので、お気軽にご参加ください。



広石 英記 先生

東京電機大学 教授・日本PBL研究所 理事



今回の、「講義とワーク アクティブラーニングからPBLへ」では、アクティブラーニングが目指している生徒の「能動的学習」の中身のお話をします。また、その上で、全ての教科で導入可能なアクティブラーニングの具体的手法である（教科の授業の中で課題解決型学習を実現できる）パフォーマンス課題のコツを、ワークショップで経験的に学んでいただきます。

もう少し具体的に説明しますと、アクティブラーニングは、生徒の外形的な活動を目指した学習ではなく、習得した知識（事実に知識、概念的知識）や技能（個別スキル、見方・考え方）を活用して「思考・判断・表現」する「深い学び」を目指した学習形態です。この講義とワークでは、その「深い学び」の意味の説明、「深い学び」を生徒にもたらしするための具体的手順や注意点を説明いたします。是非、日々の授業の中に取り入れていただければと思います。

一般財団法人 日本私学教育研究所

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-3-8 市ヶ谷UNビル6階

TEL 03-3222-1621 FAX 03-3222-1683 日本私学教育研究所HP <http://www.shigaku.or.jp/>